

## 平成 29 年度第 4 回やまがた出会いサポートセンター運営委員会議事要旨

平成 30 年 2 月 15 日（木）13 時 30 分～15 時 30 分

山形県職員会館 あこや会館 1 階ホール

### 議事内容

- ・総会付議案件について、原案どおり総会に提案することを了承された。
  - －役員の変更（副会長、監事）、平成 29 年度補正予算、平成 30 年度事業計画・収支予算
- ・平成 30 年度業務委託の調達手順、やまがた縁結びたいとの具体的連携について協議し、委員からの質疑・提案を踏まえ資料どおり進めることとなった。

### 主な発言要旨

- <委員>縁結びたいとの連携による結婚希望者へのサポート機能強化は、縁結びたいへの委託料などの費用は発生するのか。
- <事務局>縁結びたいのセンター駐在や結婚相談会、結婚塾に係る謝礼や交通費などの経費を平成 30 年度予算案に計上している。
- <委員>成婚報告数にはシステムによるマッチング以外の成婚も入っているのか。
- <事務局>メールマガジンなどセンターのサービスを利用して成婚したという考えで、登録会員同士以外の成婚報告も含めている。
- <委員>縁結びたいがマッチングシステムで本人の希望に合った方を代理で検索し、お見合いの申込みを勧めるというのはどうか。
- <事務局>マッチングシステムのデータは縁結びたいには開示しない。縁結びたいのサポートの充実に関するご提案として今後の検討案件としたい。
- <委員>登録期間満了者の再登録率が低いとのことだが、退会者へのアンケート実施など検証はしているのか。
- <事務局>他県の再登録率も当センターと同程度で 15%程度である。期間満了が近づいた会員にメール及び電話による案内を実施している。退会者には理由を聞き取りしている。退会理由は、出会いがなかった、結婚、転勤等が多かった。
- <委員>縁結びたいとの連携は賛成だが、センターへの土日駐在には県内各地の縁結びたいが担当するのか。村山地域の縁結びたいにばかり負担がかかるのではないかと。
- <事務局>駐在していただく方は、縁結びたいの中で決めてもらう。
- <委員>女性向け婚活カフェに期待したい。
- <事務局>女性向け婚活カフェについては、集まった女性同士で気持ちが高まって、一緒に婚活イベントに参加しようとなってくれば良いと考えている。
- <委員>他県の登録料について聞きたい。
- <事務局>秋田県が 3 年間で 10,000 円、茨城県が 3 年間で 10,500 円、山梨県が 2 年間で 10,000 円、山口県が 1 年間で 5,000 円、愛媛県が 2 年間で 10,000 円となっている。他県を参考にして当センターの登録料を設定した。

- <委員>縁結びたいはどのような活動をしているのか。
- <事務局>県に登録しボランティアで仲人活動を行う方々で、現在 46 の個人及び団体がいる。お相手探しから成婚まで手厚くサポートしている。
- <委員>システムによるマッチングの他、縁結びたいとの連携によるアナログ的なサポートも重要である。縁結びたいはセンターの会員情報等を見ることができるのか。
- <事務局>縁結びたいにはセンターの会員情報を開示しない。
- <委員>PR 手法の提案だが、これまでインターネットやチラシで街コンの周知をしてきたが、今年度は街中の看板を設置した。目につく場所を選び所有者の協力を得て、イベントの 1 か月前から土日に無料で看板を設置したところ大変効果があったので参考にしてほしい。
- セミナー等の講師については、費用が高額であっても本気モードで指導してくれる方に依頼してみてもよいのではないかと。
- <委員>縁結びたいとの連携による人的なサポートは大切だと思う。最上地域には縁結びたいが 1 名だけである。縁結びたいの紹介や募集等を広報誌に掲載するなどの周知が必要だ。
- <事務局>縁結びたいの拡大も必要であり、各市町村の仲人団体にも加わっていただきたいので、足を運んで PR していきたい。
- <委員>システムによるマッチングでは、女性はお見合い申込みを断る方が多いことや、女性からの申込みが少ないとあったが、その理由を聞いているのか。
- <事務局>女性は相手に求める条件が高い方が多い傾向にあるようだ。逆に条件が低い女性は申込みが多数きてプロフィール閲覧するのに疲れてしまう状況にある。システムを上手に使っていただけるよう会員向けの勉強会の実施などを検討したい。
- <委員>婚活イベントの参加者は男性が多く、意識啓発セミナーの参加者は女性が多い。男性はありのままの自分の良さを分かってくれる女性を望む人が多いが、まず初対面の相手に好印象を与える術も必要なので、身だしなみや会話術等のセミナーを婚活イベント前に実施してみてもどうか。また、婚活を全面に出さないようなイベントだと女性が参加しやすいのではないかと。
- <委員>土地柄や地域性もあるが他県の良いところを学んで、導入できる部分は積極的に取り組んでもらいたい。交際成立率が低いとあるが、縁結びたいがかかわるようになれば、きめ細かなサポートにより交際成立率も高くなっていくのではないかと。
- <委員>平成 30 年度事業計画案にあるとおり、地域バランスを考慮したサービスを提供してほしい。当町では、地域おこし協力隊と連携し、親世代の啓発、婚活を全面に出さないイベントの実施等に取り組んでいるところである。
- <事務局>秋田県では希望があった 12 市町村で出張登録・閲覧会を実施した。当センターでも実施することとなった場合に、受け入れは可能か。
- <委員>市町村の取組みと一緒に連携できれば良いと考える。
- <事務局>センターと市町村が共同で企画することにより利用しやすくなると思うので、来年度からの取組みとして検討する。

<委員>どの程度効果が見込めるかわからない部分もあるが、出張登録・閲覧会の拡大はとても良いと考える。

<委員>縁結びたいとの連携は上手くまわっていけば理想的だが、現場では良い面だけではなく様々な問題も生じてくる。事務局が現場の声を聞き修正しながら進めてほしい。

<委員>新入社員向けの研修時などに企業向けの婚活出前講座を実施した。セミナー実施にあたっては、受講者が納得できるような分析力のあるプロの講師を選定すべきである。カフェでのイベントが女性に好評で、「相席カフェ」のような企画も良かった。

<オブザーバー>広域組織で年4回程度婚活イベントを実施している。イベント終了後の参加者の状況まで把握できていないので、縁結びたいなどと連携しながら進めていければと考えている。